



故從四位勳三等松木幹一郎敘勳、件
 右謹テ裁可ヲ仰ク
 昭和十四年六月二十三日
 内閣總理大臣男爵平沼騏一郎



内

閣

昭和拾四年九月廿五日
昭和拾四年六月廿六日勅令傳達
勅令第六百一十四号

賞勳局第二五二號

昭和十四年六月二十三日 内閣書記官長

内閣書記官長

昭和十四年六月二十三日

内閣總理大臣 臣

賞勳局總裁



故從四位勲三等松木幹一郎ハ明治二十九年七月遞信省ニ職ヲ奉シ尋テ鐵道院理事東京市電氣局長同市參與帝都復興院副總裁兼理事等ノ官公職ヲ歷テ昭和四年十二月臺灣電力株式會社社長ニ就任スルヤ同社ノ基礎事業タル日月潭電氣事業ノ再

賞勳局

興ニ關シ幾多ノ困難ヲ排シテ之ガ計畫ノ實行ニ當リ設計ノ改善或ハ建設費ノ削減等ヲ行ヒ遂ニ工事ヲ完成セシメ同社今日アルノ基礎確立ニ資シタルトコロ大ナリ又同人ハ國産アルミニウム會社ノ創立ヲ志シ國內有力財閥ノ協同ヲ從憑シ同社ノ成立ヲ見ルニ至ラシメタル等功績顯著ノ者ニ候處本月十四日死去セル趣ニ付此際特ニ同日附テ以テ勲二等ニ叙シ瑞寶章ヲ授ケ

ラレ度此段允裁ヲ仰ク

内

閣

内閣 拓務省一子

官報第二〇一〇號

昭和十四年六月十九日

拓務大臣 小磯 國 重



内閣總理大臣 男爵 平 沼 廣 一 郎 殿

愛媛縣同業部補河村文字河原隊

紋勳二等授瑞寶章

故愛媛電力株式会社監査

從四五三年

檢 本 幹 一 郎

明治五年二月二日生

右者明治二十九年七月通信局拜命同三十年十一月通信事務官任官

拓 務 省

以來教育ニ歴任シ同四十三年三月鐵道院理事ニ就任同四十四年七月休職直チニ東京市電氣局長又ハ東京市参事トナリ大正四年東京市参事ト辭任ス同十二年九月任香檳嶼興築局總辦兼同院理事トナリテ香檳嶼興ノ振興ニ操事シ同十三年二月通信局任官同十四年十二月臺灣電力株式会社監査ニ就任シ同院理事兼同院理事ヲ根本的ニ改メ爾來諸種經營費多ノ困難ヲ克服シテ遂ニ此ノ大事業ヲ完成セシメ今ヤ事業ハ工事ノ完成ト兼務各般ノ改善トニ依リ甚速進展トナリ本島産業ノ開發並文化ノ向上ニ貢獻スルトコロ極メテ大ニシテ其功績洵ニ顯著ナルモノアル處病氣ノ爲本月十日日死亡セルニ付テハ同人血前ノ功績ニ儘ミ特ニ血前ノ日附ヲ以テ其功ノ追叙勳ノ儀臺灣總

上奏書用紙(明券前)

(日本標準規格 B4)



240

管ヨリ申越ノ次第ニ有之候條御取置相傳度別紙有様御書及履書
相違此度及幕前候也

拓務省

上奏書用紙(明具合納)

(日本新半紙格 B.4)

功績調書

臺灣電力株式會社社長 松木幹一郎

本島ニ於ケル日月潭水力電氣事業計畫ノ目的トスル處ハ低廉ニシテ豐富ナル電力ヲ發生シ之ヲ根幹トシテ本島産業ノ振興及文化ノ向上ヲ圖ラントスルニ在リタルモノトス。總督府ハ當初之ヲ官營ニ依ルモノトシテ計畫セルモ財政上ノ都合ニヨリ之ガ急施困難ナルモノアリシヲ以テ大正八年既往ニ於ケル官營事業ヲ現物出資トスル半官半民組織ニヨル臺灣電力株式會社ヲ設立シ之ヲ遂行セシムルコトトシ、時ノ民政長官下村宏ヲ創立委員長トシ廣ク民間ヨリ株式ヲ募集シタルニ善ク財界ノ信頼ヲ博シ極メテ好成績裡ニ會社ノ創立ヲ見タリ。

拓務省

會社ハ大正八年八月其創立後直ニ工事ニ着手シタルガ同十一年歐洲大戰後ノ財界變動ニ基因スル物價勞銀ノ暴騰ニ逢着シ工事費ニ不足ヲ來シ遂ニ資金調達難ニ陥リ計畫ノ進行ニ挫折ヲ來セリ。爾來數年、或ハ日本興業銀行ノ融資ヲ以テスル再興案、或ハ官營復歸案政府出資増額案並ニ日月潭事業ノミヲ分離シ官營ニ依ラシムル案等種々考究ヲ重ネタルガ、當時ノ本島電氣事業實況ニ鑑ミ發生電力ノ消化容易ナラザルヲ憂ヒ且其工事設計ノ一部ニ不安アリトサレ大正十五年二月遂ニ工事打切ヲ決スルノ已ムナキニ到レリ。

カクテ本島電氣事業ハ總額二千數百萬圓ノ事業資産ニ對シ三千七百餘萬圓ノ睡眠資金ヲ擁スルコトトナリ信用地ヲ拂ヒ資金調達ノ途ヲ失ヒ

從テ電源涸渴シ一般電燈電力ノ供給ヲモ之ヲ謝絶スルノ窮狀ニ陥レリ。昭和三年川村總督就任スルヤ之ヲ以テ統治威信上一日モ勿諸ニ付シ難キ事態ナリトナシ、曩ニ米國「ストーイン、エンド、ウエブスター」會社ガ下シタル工事設計上不安ナシトスル鑑定ニ基キ再興工事費ヲ四千八百六十萬圓トスル會社豫算ヲ認メ政府出資四百五十萬圓政府保證四千九百萬圓（手取豫定額四千六百六十萬圓）ヲ主幹トスル資金計畫ヲ樹テ第五十六議會ニ提出シ其協贊ヲ得テ昭和四年四月準備工事ニ着手セリ。然ルニ同年七月總督交迭シ石塚總督就任スルヤ本案ヲ以テ事業當初ノ目的タル豊富低廉ナル電力ヲ發生スル所以トスルニ足ラズトナシ工事ノ進行ヲ見合ハセ重ネテ再檢討ヲ行ハシムルコトトナレリ。松木

拓務省

幹一郎ハ此情勢ノ下ニ臺灣電力株式會社社長ニ就任セリ。

第一 日月潭水力電氣事業ノ完成

社長ニ就任セル松木幹一郎ハ日月潭工事ノ再興ヲ以テ事業當初ノ目的タル豊富低廉ナル電力發生ノ意義アラシムル爲ニハ其設計ヲ改善シ建設費ノ削減ヲ行フト同時ニ毎年ノ需要増加ヲ促進シテ發生電力ノ消化ニ不安ナカラシムルコトノ緊要ナルニ着眼シ或ハ深ク水源地ノ踏査ヲ行ハシメ或ハ適材ヲ配シ衆智^ヲ聚メ堅實廉價ナル工事設計ヲ樹立シ或ハ火力發電所ノ増設ニヨリ工事期間中ニ於ケル需要速進ノ方途ヲ講ゼシメ檢討八閱月設計、消化及廉價供給ニツキ充分確信ヲ得テ再調事業目論見書ニヨリ工事進行見合命令ノ解除ヲ稟申スルニ

到レリ。カクテ昭和五年十月工事ノ再進行ヲ見、爾來四ヶ年松木社長ハ計畫ノ實行ノ衝ニ當リ拮据經營日夜寢食ヲ忘レ只管低廉豐富ナル電源タルノ實ヲ擧ゲルコトニ努メタル結果、能ク一瞬ノ機會ヲ捉ヘテ外債募集ニ成功シ工事請負人ノ撰定ニ關スル騒然タル論議モ其一貫セル誠意ヲ以テ對處シ遂ニ工事費ニ於テ第五十六議會協贊ノモノニ比シ六百七十萬圓ヲ減シタル豫算ヲ以テ尙九百七十餘圓ノ剩餘ヲ生ゼシメ之ヲ以テ工事期間中ノ爲替差損ヲ補填シタル外附帶工事トシテ第二次送變電設備ノ一部ヲ施行スルヲ得セシメタリ。凡ソ水力電氣ノ原價ハ發電所建設費ノ金利償却額ガ其九割ヲ占ムルモノナルニ鑑ルトキ、總額四千五百萬圓ニ過ギザル本工事費中ヨリ前記合計千六百餘萬圓ヲ節約シ得タル此事績ハ、本島電氣事業ノ上ニ顯著

拓務省

ナル好果ヲ齎ラシタルコト想像ニ難カラズ、現在電燈料金ガ松木社長就任當時ニ比シ約三割低下シ島内電燈數亦當時ノ二倍ニ増加セル如キコレヲ證シテ餘リアルモノナルベシ。

第二 對米爲替低落ニヨル國家財政上ニ及ボス損失ヲ未然ニ防キタルコト

臺灣電力株式會社ノ米貨社債二千二百八十萬弗ハ昭和六年七月其元利拂ニツキ帝國政府保證ノ下ニ「ジエー、ビー、モルガン」商會ヲ主班トスル引受シシケートニヨリテ募集セラレタルモノナリ。然ルニ發行後僅カニ六ヶ月同年十二月ニ至リ我爲替政策ノ轉換ニヨリ金轉出禁止セラレ對米爲替相場ハ暴落シ外債利子支拂額ハ年額二百五十萬圓ヨリ一躍五百萬圓ニ倍加シ事業收支ニ重大ナル壓迫ヲ與フル

ニ到レリ。外債二千二百八十萬弗ハ之ヲ平價ヲ以テ換算スルモ四千五百餘萬圓ニ相當シ公稱資本金僅カニ三千四百五十萬圓ノ當時會社ニトリ素ヨリ過重ノ負債タルヲ免レズ、曩ニ外債引受交渉ニ際シテモ「モルガン」商會ハ仔細ニ會社業績ヲ考査シタル後本件政府保證ハ結果ニ於テ政府補償ヲ意味スベシト警告シ特ニ大藏大臣ノ引受依頼書狀ヲ要求シタル程危險視セラレタルモノナリ。今ヤ爲替低落ノ影響ニヨリ一朝ニシテ倍額ノ利拂ヲ要スルニ到リタルモノナルヲ以テ遂ニ之ニ保證ヲ與ヘタル政府ハ少ナクモ爲替差損ノ補償義務ヲ必至トスルニ至ルモノト觀察セラレタリ。然ルニ松木社長ハ之ニヨリテ國家財政ニ累ノ及ブコトヲ惧レ社内外ノ衆智ニ圖リ冷靜ニシテ敏速ナル諸對策ヲ講ジ全ク之ヲ獨自ノ増益ニヨリテ補填スルノ途ヲ開

拓務省

ケリ。斯ノ如キハ世人ノ悉ク之ヲ至難トセルトコロニシテ良ク之ヲ善處シタル松木社長ノ苦心ト功績ハ實ニ甚大ナルモノアルベシ

第三 國産アルミニウムノ誘起

昭和五年日月潭水力電氣工事ノ進行決定スルヤ夙ニ其發電餘裕ヲ以テ國家的緊要事業ノ振興ニ資セント志セリ。而シテ當時國內ニ於テハ一噸ノ「アルミニウム」モ産出セラレズ其企業採算ハ最モ危惧セラレ居ル實狀ヲ察シ、同事業ガ多量ノ電氣ヲ所要スル技術工程ニアルヲ利用シ之ニ極メテ低廉ナル電力供給ノ豫約ヲナシ以テ本事業ノ誘起ヲ圖ラントセリ。

想フニ當時ニ於ケル國防産業政策ノ實勢ハ航空機及自動車用材トシテ缺クベカラザル「アルミニウム」ノ國內産出ヲ極メテ緊急トナシ

タルモノニシテ、國產原料ヲ以テスル製作技術ノ自信未ダ完カラザルヲ事由トシテ之ヲ躊躇スベキ秋ニ非ズ、暫ラク原鑛ヲ海外ニ仰グモ先以テ純良ナル「アルミニウム」ヲ產出スルニ進マザルベカラズトナセリ。恰モ海外企業調査組合ハ蘭印「ピントアン」島ニ於テ優良ナル原鑛ノ權利ヲ保有セシヲ以テ之ヲ臺灣ニ輸入シ確立セル技術方法ニヨリテ「アルミニウム」精鍊ヲ行^タコトノ適切ナルヲ認メ、昭和七年同組合ト電力供給豫約ヲ締結セシメタリ。爾來三ヶ年常ニ國策的電氣料金ノ趣旨ヲ貫キ本企畫ノ實現ヲ期シタル爲、翌年三井三菱住友古河等國內有力財閥ノ協同奮起ヲ促シ我國實業界未曾有ノ舉國一致的株式會社ノ成立ヲ見、年產六千噸ノ日本「アルミニウム」高雄工場ヲ建設スルニ到レリ。

拓 務 省

今ヤ滿洲上海兩事變ヲ經テ航空機用「アルミニウム」ノ需要頓ニ顯著トナリ其市價モ當時ニ比シ十數割ノ上昇ヲ示シタルヲ以テ所謂國產「アルミニウム」事業計畫ノ簇出ヲ見ルニ至リシモ、多クハ其工場ノ建設ニ手間取り、既ニ運轉中ノモノト雖モ其技術ハ未ダ純良製品ヲ產出スルモノ尠ナク、航空機用トシテ純良極メテ高キ國產產品ヲ稱セラるルモノ其大部分ヲ本工場ノ供給ニ俟チツツアルヲ省ルトキ本企畫方如何ニ卓見ニ基キシモノナルカヲ窺知スルニ足ルベシ。而シテ其茲ニ到リタルハ素ヨリ日本「アルミニウム」會社當事者ノ苦心努力ノ^没スベカラザルモノアリト雖モ、其奮起ヲ促シタル松木社長ノ國士的誠意ノ功績極メテ尊重スベキモノアルヲ認ム

第四 現下國策對應態勢ノ確立

タイプライター用紙(青田納)

(日本標準規格JIS)

以上ノ如ク常ニ國策對應ノ態度ヲ採レル松木社長麾下ノ臺灣電力株式會社ハ現下國運ノ飛躍的進展ニ則應シ曩ニ金門島及廈門ニ於ケル電氣事業ノ急速復舊ニ携ハリ更ニ廣東占領ノコトアルヤ煙硝ノ中ニ百名ノ從事員ヲ送り催ニ十日ニシテ電燈ヲ復舊シ同地ノ治安回復ニ功獻スルトコロ妙ナカラズ、今尙實質的ニ其經營ヲ繼續シツツアルモノナリ。

カクノ如キハ本島事業者トシテ又帝國臣民トシテ其責務ノ一端ヲ果タシタルニ過ギザルモ會社ガ現下ノ生産擴充國策ニ則應セントシテ作成シタル新事業自論見コソ松木社長ノ報國的決意ヲ極メテ明白ニ示スモノト云フベシ。即チ「マグネシウム」精鍊及苛性曹達製出ガ現下擴充計畫ノ集中點ノ一ナルヲ察シ之ニ對シ低廉ナル電氣料金

拓 務 省

ヲ以テ臨マントセル外、南方政策ノ據點據シテ新タニ本島ノ上ニ加ヘラレタル重要性ニ基キ帝國海軍ガ茲ニ行ハントスル諸施設ニ對スル電力ノ供給ヲ充分ナラシムル爲二十數萬「キロ」ノ水力開發計畫ヲ定メ、之ガ資金トシテ二千數百萬圓ノ増資拂込額及八千萬圓ノ社債募集ヲ豫定セリ。本計畫ハ其電力供給ニ於テ未ダ其實績ヲ見ルニ到ラザルモ其基本タル資金調達ハ既ニ順調ニ進捗シ曩ニ社債八千萬圓ノ契約ニ基キ一千萬圓ノ募集ヲ終リ今増資二千數百萬圓ハ四倍餘ノ應募ヲ得テ成功セルヲ以テ新事業計畫ノ進路ハ既ニ確立セルモノト云フベシ。而シテ他方本島ニ於ケル天然瓦斯ヲ以テスル高級航空燃料ノ製出試験及貧鑛ヲ以テスル電氣製鐵ノ試験ハ前記事業資金ノ確立ニヨリ近ク國策的結實ヲ見ルニ到ルベク何レモ松木社長ノ最モ

マイブライネー切紙 (吉田納)

期待セルトコロナリ

第五 國防其他ニ對スル獻策

支那事變勃發ト共ニ本島モ戰時體制下ニ入り兩方防衛ノ重大性ヲ加フルニ及ビ、臺灣電力會社ヲシテ左記ノ如ク國防獻金其他軍事施設費ノ寄贈ヲナサシメタリ

一、昭和九年十二月 臺灣國防聯合本部航空部ニ寄附、金五萬

圓

一、昭和十二年十一月 臺北、臺中海軍航空隊電氣設備費金四萬三千

八百二十六圓

一、昭和十三年 三月 陸海軍へ國防獻金十五萬圓

第六 公職奉仕

拓務省

同人ハ國策會社タル臺灣電力會社ノ社長トシテ且前歴アル民間側ノ長老トシテ國民共ニ其ノ手與聲與ニ嚮望スル處多カリシヲ以テ左記ノ如ク各種公職ノ委嘱ヲ受ケタリ特ニ府評議員、臨時產業調査會委員、熱帶產業調査會委員及昭和十周年記念臺灣博覽會協賛會々長トシテ盡瘁スル所多大ナルモノアレリ

一、昭和五年七月臺灣總督府評議員奉命以來重任現在ニ至ル

一、昭和五年七月臺灣總督府臨時產業調査會委員囑託

一、昭和十年九月臺灣總督府熱帶產業調査會委員囑託

一、昭和十年十月臺灣國立公園委員會委員奉命

一、昭和十年十月始政四十周年記念臺灣博覽會協賛會々長囑託

一、昭和十二年十一月臺灣中央防衛委員會委員被仰付

以上

マイブライヤー用紙 (吉田勝)

功績調書

松木幹一郎

明治二十九年帝國大學ヲ卒業スルヤ直チニ職ヲ遞信省ニ奉シ爾來諸官ニ歷任シテ明治四十一年十二月官制改正ニ依リ鐵道院總裁官房秘書課長ニ轉スル迄十二年余ニ亘リ終始克ク遞信事業ノ改善發達ニ銳意シ其ノ間明治三十八年五月ヨリ全三十九年十月迄文書課長トシテ當省樞機ニ參劃シ、電話規則ノ改定ニ依リ電話料金ノ低減ヲ圖リ、或ハ至急通話制ヲ設ケテ之ガ措通ニ萬全ヲ策シ、又鑛業特設電話制ノ創定、東京グワム島間及佐世保大連間ノ海底線通信ノ開始ニ努メタル等遞信事業ノ進展ニ格段ノ努力ヲ傾注シタル功績洵ニ多大ナルモノアリトス

拓務省

特ニ西歷紀元一九〇六年即チ明治三十九年伊太利國羅馬ニ於テ第六回萬國郵便聯合大會議開催セララルヤ同人ハ選バレテ帝國委員トナリ同地ニ派遣セラレタリ、時恰モ日露戰爭直後ニシテ各國ノ帝國ヲ視ルニ未ダ正鵠ヲ得タルモノト云フヲ得ザリシモ其ノ卓拔ナル手腕ト明快ナル頭腦トハ克ク他國人ヲシテ帝國ノ地位ト實力トヲ認識セシメタルノミナラス同會議ヲシテ有利ニ導キ多大ノ收獲ヲ擧グルヲ得タルハ之偏ヘニ同人ノ功績ニ因ルモノト謂フモ敢テ過言ニ非ザルナリ。

功 績 調 書

元帝都復興院副總裁 松 木 幹 一 郎

大震火災ノ直後帝都復興院副總裁ノ重職ニ就キ、總裁ヲ佐ケテ帝都復興ノ大計ニ参画シ、災後匆忙ノ間ニ處シテ應急ノ施措ヲ圖ラス、恪勤精勵克ク短日月ニ帝都復興事業ノ計畫ヲ完成シ復興費豫算ノ編成ヲ了シタルノミナラス、地方公共團體ニ於テ執行スル復興事業ヲ統制シテ克ク其ノ連絡ヲ保持シ何等ノ支吾ナカラシムル等其ノ勤勞苦心洵ニ容易ナラサルモノアリ加之帝都復興評議會ノ議事ニ参與シ又政府委員トシテ帝國議會ニ於テ復興費豫算ノ成立ニ努力スル一方其ノ他物資供給局長ヲ兼ネ帝都復興ニ關スル物資ノ供給事務ニ盡瘁スル等帝都復興ノ

拓 務 省

大業ニ参シ勞功洵ニ顯著ナリトス

マイブライオン印刷 吉田精

(日本標準規格K5)

秘發第四一五號

昭和十四年六月廿二日

商工大臣官房秘書課長



賞勲局書記官 御中

日本アルミニウム株式會社取締役 松木 幹一郎
右者本邦アルミニウム工業、發展ニ貢獻セル功績調
書及御送付候ニ付可然御取計相煩度此段及照
會候也

追テ添付、生産額調ハ機密ヲ要スルモノニ付特ニ申添候

商 工 省

日本アルミニウム株式會社取締役 松木 幹一郎

日本アルミニウム株式會社ハ昭和十年ノ創立ニ係リ本社ヲ東京市ニ、
 工場ヲ高雄ニ有シ昭和十一年以來生産ニ從事シツ、アルモ更ニ目下高
 雄、花蓮港及福岡縣ニ新工場ヲ建設スベク折角努力中ニ在リ
 最近ニ於ケル本會社ノアルミニウム生産額ハ本邦總生産額ノ約二割五
 分ニ當ルモ其ノ品質頗ル優良然モ生産費最モ低廉ニシテ製品ハ専ラ航
 空機材トシテ使用セラレツ、アリ右ノ如キハ全ク本會社ノ技術ノ優秀
 ナルヲ稱スルモノニシテ之ニ依リ本邦新業ノ啓發進展ニ資スル所大ナ
 ルモノアリト謂フベシ
 凡ソ電力ハアルミニウムノ製練ニ必要缺クベカラザルモノニシテ之ガ
 供給ノ如何ハアルミニウム工業ノ死命ヲ制スルモノナリ松木幹一郎ハ
 臺灣電力株式會社ノ社長トシテ將又日本アルミニウム株式會社創立以
 來ノ取締役トシテ本邦アルミニウム工業ノ發展ニ寄與スル所極メテ大
 ナルモノアリト認ム

252

松山

アルミニウム生産額調

總生産額	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年
六六六四	一三、七八七	一九、三〇三	
日本アルミ	二〇	二、〇三六	三、八九七

單位應

商工省

昭和十三年品位別生産額

九・三%未滿	三、四三七		〇
九・五%以下	四、三六六	一	〇
九・七%以下	九、一四一	一、五八五	一七
九・七%以上	二、三五九	二、三一	九八
計	一九、三〇三	三、八九七	二〇

總生産額

日本アルミ

割合%

裏面白紙

日本標準規格 B5 (182×257mm)

昭和十四年一月一四月品位別生産額

計	九九 九 七 %	九九 九 七 %	九九 九 五 %	九九 九 三 %	
	以上	以下	以上	以下	
	八 八 五 七	一 一 二 二	五 〇 九 五	一 七 〇 五	總生産額
	二 三 一 七	八 四 八	一 三 五 三	一 九	日本アルミ
	二 六	七 六	二 七	一 〇	割合 %

商
工
省

裏
面
白
紙

位勳爵	博士	府縣族籍	原籍	年	月	日	経	氏名	氏名	氏名
			愛媛縣周桑郡補河村大字河原澤	明治二九	七	一〇	東京法科大学法學科(英吉利法律科)卒業	明治五年二月二日	松本	幹一郎
							任通信局			
							給出收簿			
							通信局勤務ヲ命ス			
							通信局外信員ヲ命ス			
							文官高等試験及第			
							横濱神戸及豊崎ニ出張ヲ命ス			
							非職ヲ命ス(第五師團ニ入營ノ爲メ)			
				明治三〇	六	二八	復職ヲ命ス			
							通信局勤務ヲ命ス			
							改選信省官制			
							郵便局勤務ヲ命ス			
							依願免本官			
							任通信局官			内閣
							兼高等官七等			
							十歳修下場			通信省
							検査局勤務ヲ命ス			
							監査局副長兼課長ヲ命ス			
							兼従七位			
							横濱ニ出張ヲ命ス			
							大阪府へ出張ヲ命ス			
							九歳修下場			

拓務省

履歴書用紙 甲

〃	〃	八二〇	監査局長ヲ命ス	
〃	〃	一一、一	股官(官制改正)	
〃	〃		任通信事務官	内閣
〃	〃		敬高等官七等	
〃	〃		七級特下級	通信省
〃	〃		東京郵便電信局長ヲ命ス	
〃	〃	一、一七	六級特下級	
三二	〃	五二五	任通信書記官	内閣
〃	〃		敬高等官六等	
〃	〃		七級特下級	通信省
〃	〃		通信局長ヲ命ス	
〃	〃		通信局長ヲ命ス	
〃	〃	六二〇	敬正七位	
明治三二	一、二二二		左ノ郵便電信局長内へ出張ヲ命ス	通信省
			京都、名古屋	
三五	六九		札幌郵便局長ヲ命ス	
〃	六二五		六級特下級	
〃	一一、二〇		通信局長不在中代理ヲ命ス	
〃	一一、二二		通信局長ヲ命ス	
〃	一一、二七		文官普通級或委員ヲ命ス	
〃	一一、二八		東海道、關西、山陽鐵道郵便線路へ出張ヲ命ス	
三四	一、一		通信局長補任長ヲ命ス	
〃	八二九		任通信事務官	
〃			敬高等官五等	内閣
〃			三級特下級	通信省
〃			廣島郵便電信局長ヲ命ス	

拓務省

・	一三二〇	従六位	
三五	一三二八	明治三十三年清國尋獲ニ於ケル功ニ依リ金百圓ヲ賜フ	
三六	四一	殿官(官制改正)	
・	・	任一等郵便局長	
・	・	従高等官五等	内閣
・	・	廣島郵便局長ヲ命ス	
・	・	四級停下給	逓信省
三七	三二三	従高等官四等	内閣
・	・	三級停下給	逓信省
・	四二〇	従正六位	
三八	五二六	任逓信書記官	
・	・	従高等官四等	内閣
・	・	三級停下給	逓信省
明治三八	五一六	大臣官房文書總長ヲ命ス	
・	・	従正主任及官報報費主任ヲ命ス	
・	一、一八	任逓信省抄書官	
・	・	従高等官四等	内閣
・	・	大臣官房庶務課長ヲ命ス	逓信省
・	一、二五	二級停下給	
三九	二七	伊國總督府ニ於ケル第六回萬國郵便會議開議ニ付キ委員トシテ特別被仰付	内閣
・	・	御用有之伊國總督府へ被差遣	
・	三、八	統計主任及官報報費主任ヲ免ス	逓信省
・	一〇一八	大臣官房庶務課長ヲ免ス	
・	・	大臣官房文書總長ヲ免ス	
・	一〇二〇	任一等郵便局長	

拓務省

一三	二二四	依願免本官並兼官	内閣
昭和 二	八、六	財團法人東京市政調査會專務理事退任	
四	一三、二三	臺灣電力株式會社社長ヲ命ス	臺灣總督府
五	七、二	臺灣總督府評議會員ヲ命ス	
七	七、二	臺灣總督府臨時調査會委員ヲ囑託ス	
九	一三、二三	臺灣總督府評議會員ヲ命ス 余任一箇ヲ賜フ(亦却復其手未功) 臺灣電力株式會社社長ヲ命ス(再任)	臺灣總督府 從二位下 中川健藏
一〇	六、二一	日本アルミニウム株式會社取締役ニ遷任セララル	
七	七、三	臺灣電化株式會社相談役ニ推薦セララル	
九	九、一三	臺灣總督府熱帶産業調査會委員ヲ囑託ス	臺灣總督府
一〇	一〇、二〇	臺灣國立公園 委員會委員ヲ命ス	
一一	七、二	臺灣總督府評議會員ヲ命ス	
七	七、三〇	臺灣拓殖株式會社設立委員被仰付	内閣
一一	一一、二五	臺灣拓殖株式會社理事ヲ命ス(參與)	臺灣總督府
〃	〃	報酬年額千圓	
〃	〃	手當年額千圓	
〃	一、二八	臺灣拓殖株式會社設立委員被免	内閣
一二	一一、四	臺灣中央防空委員會委員被仰付	

拓務省

履歷書用紙 乙